

あこうだに
赤穂谷のビャクシン

種 別	小松市指定文化財 天然記念物
指定年月日	昭和42年11月3日
所 在 地	中海町

ビャクシンは、ヒノキ科ビャクシン属の植物で、観賞用として神社や寺院に広く植えられる常緑樹である。赤褐色の樹皮を持ち、幹は大きくねじれることもある。また樹勢が強く、幹が腐って空洞化しても生きていることがある。

中海町の赤穂谷には、延喜式内社である^{かすかみ}津上神社の奥の宮があり、このビャクシンはその社地の中に神木として立っている。津上神社の毎年春の例祭では、注連縄を取り替える儀式が行われており、多くの氏子が参列して神木を拝することが恒例となっている。

樹高は12メートル、幹回りは地上30センチメートルの所で4.3メートルである。ビャクシンは、当地方では巨木となることは少ないが、このビャクシンは氏子たちによってよく管理されてきたため、長い風雪に耐え大樹と成長するに至った。なお推定樹齢は600年である。

